

教科	国語科
9学年 単元名『学びて時に之を習ふー「論語」から』 授業実践・授業研修	
日時	2026 年5月20日(水) 8時50分～ 9時 40 分(9年2組) 11時50分～12時 40 分(9年1組)
授業者	清川 新菜
本時のねらい	自分の体験をもとに、「論語」が現代まで読み継がれている理由を考えることができる。
キーワード	自分の体験 共感 根拠 具体的な例
授業の実際 (本時の子供の姿)	本単元では、「論語」が二千五百年以上読み継がれている理由を、本文と自分の体験をもとに考えることを最終目標として学習を進めている。本時では、前回までに解釈をした、各章句に表れた孔子の見方・考え方をもとに、章句の内容と自分の体験を照らし合わせながら考える活動を行った。子供は、各章句の内容と体験のどの部分が照合するかを確認しながら、ねらいにせまる意見を構築するため、粘り強く考える姿を見せた。
事後協議の概要	子供たちが苦手意識をもっている漢文という題材であるが、プリントや教科書を参照し、自分の考えをまとめている姿があった。また、班での共有の際には、自分の考えを堂々と話すことができ、共感的に聞き合う姿も見られた。 班活動においては、よりレジリエンスを発揮する場面を作るために、批判的に読む視点を与えたり、内容について深められる問いを投げかけたりしていくことが必要である。出た意見を共感的に聞くだけでなく、言葉にこだわり、意見を吟味させていくことも重要である。 古典により親しみを持たせられるような工夫や、興味をもたせられるような問いの設定を考えていくことが必要となる。

